



松本市生物多様性地域戦略

～これまでの取組みについて～



松本市生物多様性地域戦略の概要

「生きものあふれる松本プラン」

～生物多様性のホットスポットを未来へつなぐまち 松本～

本市は日本のほぼ中央に位置し、高山、草原、里山を含む県内で最も広い面積を有している。その地形、地質、気象は複雑・多様で、そこには東西南北の様々な系統の生物が混じりあい共生して豊かな生態系が形成されている。



高山
槍ヶ岳



里地・里山
奈川地区



陸水
車屋堰(島内)

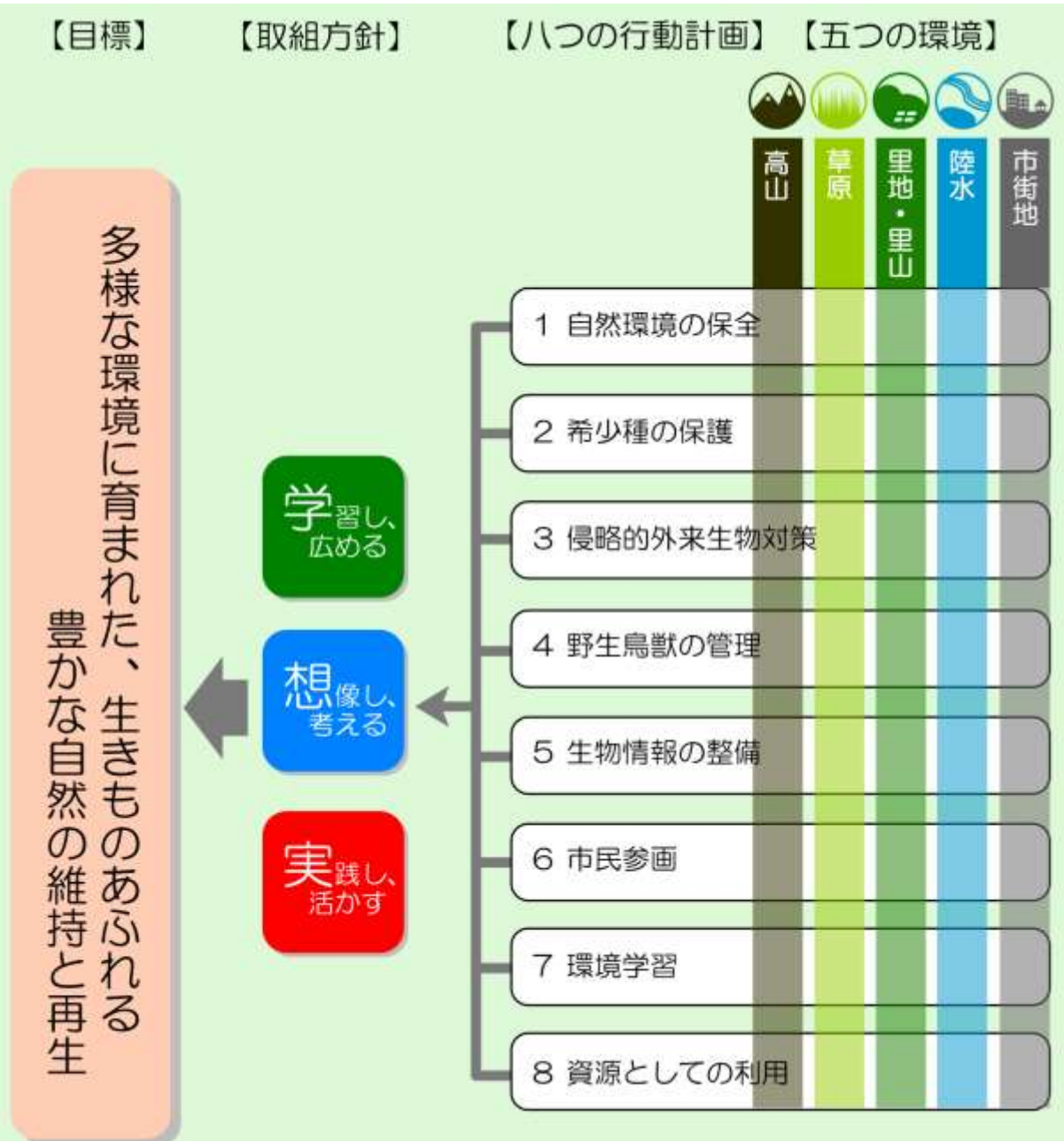


草原
美ヶ原



松本市生物多様性地域戦略の概要

戦略の体系



取組方針

1. 学習し、広める

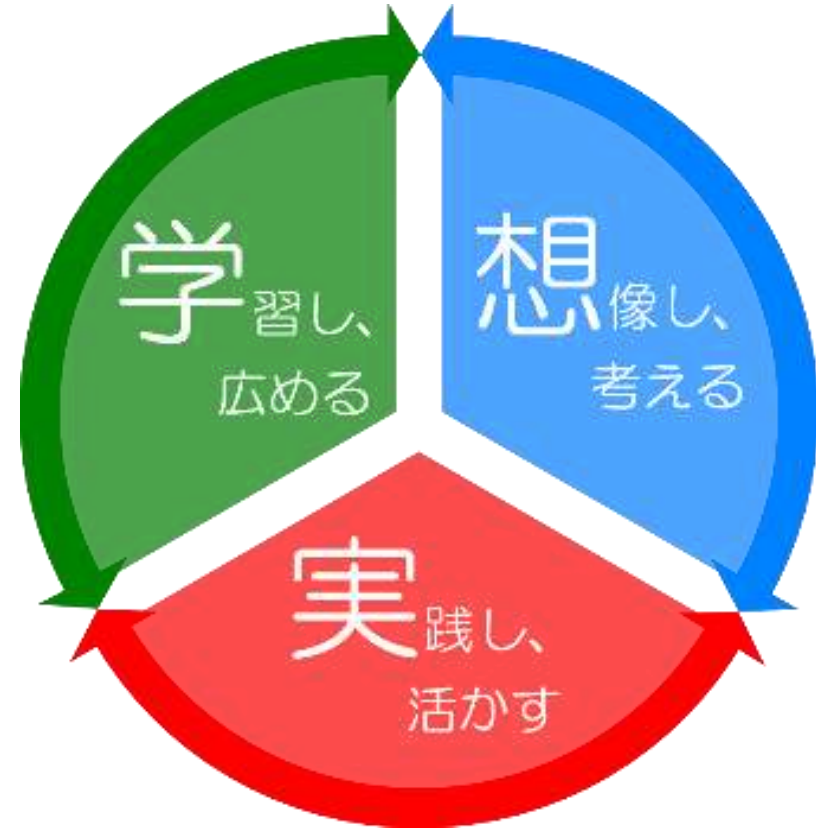
生物多様性の現状や課題について調査・学習し、理解を深め、正しい認識を広めます。

2. 想像し、考える

正しい認識に基づくあるべき姿を想像し、具体的な取り組みを考えます。

3. 実践し、活かす

生物多様性を保全する具体的な取り組みを実践し、生物多様性を持続可能な恵みとして活かします。



松本市生物多様性地域戦略の概要

行動計画

1 自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系ネットワークの保全 森林利用・森林整備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系に配慮した事業 	等
2 希少種の保護	<ul style="list-style-type: none"> 希少動植物の調査 希少動植物の保護・増殖 	<ul style="list-style-type: none"> 保全活動への協力 天然記念物の保護 	等
3 侵略的外来生物対策	<ul style="list-style-type: none"> 侵略的外来生物の現状把握 特定外来生物の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 市民協働の駆除対策 知識拡大のための講習会などの実施 	等
4 野生鳥獣の管理	<ul style="list-style-type: none"> 狩猟者の育成と捕獲の推進 野生鳥獣が人里に出没しにくい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 保護地域への侵入監視 	等
5 生物情報の整備	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の現況調査 市民からの情報収集方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なモニタリング調査 生物情報の活用 	等
6 市民参画	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加の環境調査 市民団体の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察会の実施 環境教育への参画 	等
7 環境学習	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の充実 学校林の整備・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ビオトープの推進 	等
8 資源としての利用	<ul style="list-style-type: none"> 地域産材の利用促進 農産物の地産地消の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 木質燃料の地産地消の推進 伝統野菜の保存・継承 	等

松本市生物多様性地域戦略の概要

環境ごとの重点施策



1 高山

- (1) 高山植物、高山蝶などの保全
- (2) 野生動物対策
- (3) 外来生物対策



2 草原

- (1) 草原再生事業への協力
- (2) ニホンジカ対策



3 里地・里山

- (1) 里山の森林整備の推進
- (2) 松くい虫対策の推進
- (3) 耕作放棄地の再生
- (4) 環境に配慮した農業の推進



4 陸水

- (1) 生きものに配慮した河川づくり
- (2) 外来生物対策
- (3) 身近な水辺の活用
- (4) 安全な川遊びができる水辺の整備



5 市街地

- (1) 市街地におけるビオトープづくり
- (2) 生態系ネットワークの形成

計画期間

目標年度：令和32年（2050年）までの35年間

ただし、令和2年（2020年）を短期目標年度とし更に5年ごとに見直し

生物多様性保全事業

生物多様性モニタリング調査

モデル地区における生物調査を行い、生息実態を把握することにより、生物多様性保全事業の指標とするとともに、今後の保護回復活動に役立てることを目的として実施

○奈川地区ゴマシジミモニタリング調査

- ・ 実施年度 平成29年度
- ・ 実施内容 ○ゴマシジミ生息状況調査
○食草分布・植生調査



成虫♀の産卵行動



成虫の状況

※ゴマシジミ（本州中部亜種、関東・中部亜種）の保護状況

- ・ 国内希少野生動植物種（平成28年）
 - ・ 指定希少野生動植物（平成28年）
 - ・ 絶滅危惧IA類(CR)
 - ・ 絶滅危惧IB類(EN)
 - ・ 松本市特別天然記念物（平成25年）
- ※絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
 - ※長野県希少野生動植物保護条例
 - ※環境省レッドリスト2020（令和2年）
 - ※長野県版レッドリスト2015（平成27年）
 - ※松本市文化財保護条例

➤ 長野県において希少野生動植物保護回復事業計画（ゴマシジミ）を策定(平成28年度) 7

生物多様性保全事業

○ゴマシジミ保護の取組み

(平成29年度地域発元気づくり支援金を活用)



希少野生動植物保護活動に使用するベスト



ゴマシジミ採取禁止の看板を設置

➤「長野県地域発元気づくり支援金」の活用

	事業費	支援金額	事業内容
H29	約1,062千円	796千円	・啓発事業（エコスクール） ・ゴマシジミ保護回復事業 ・生物多様性モニタリング調査業務
H30	約994千円	745千円	
R元	約845千円	633千円	

○ゴマシジミ保護の地元における取組み



残されたワレモコウ



ワレモコウを刈り取らないようにする目印

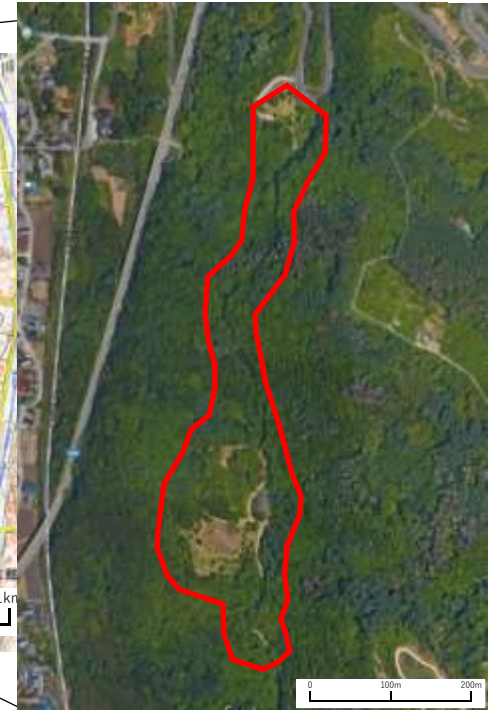
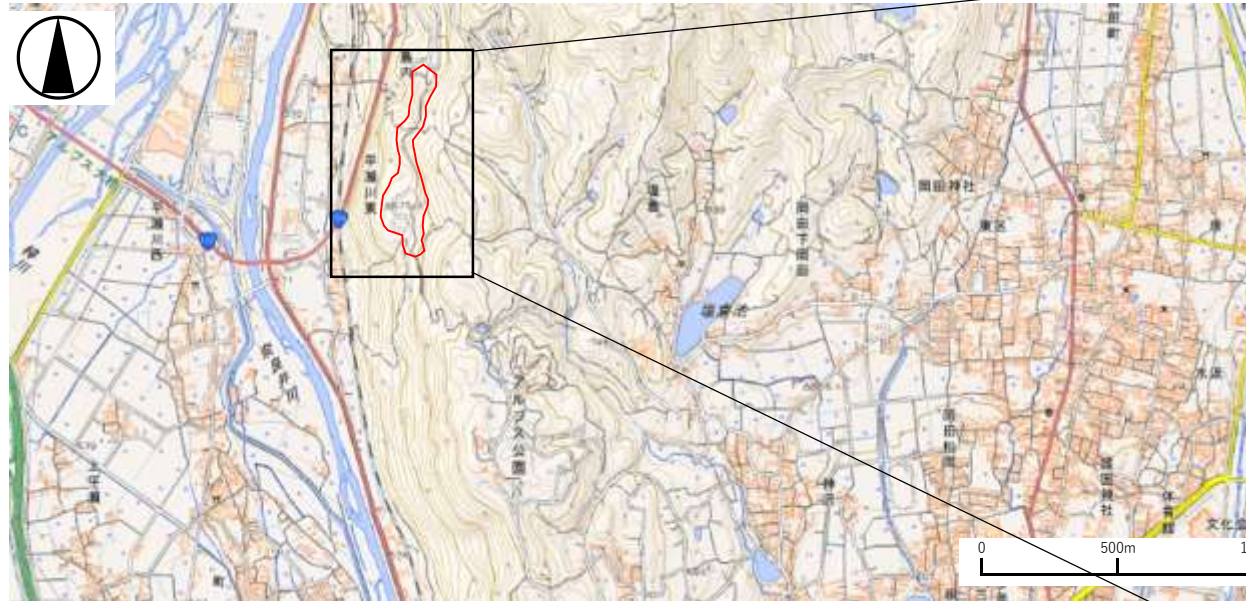
- 水田の畔に生えるワレモコウを農家の方々が刈らずに残している
(ワレモコウの生えているところに印をつけているところもある。)
- 奈川小5年生が、総合学習の一環として地元の方々の協力を得て、学校の畑や草地にワレモコウの移植をしている (平成28年)

生物多様性保全事業

生物多様性モニタリング調査

○アルプス公園チョウ類モニタリング調査

- ・実施年度 平成30年度
- ・実施内容 1) チョウ類の組成及び生息状況の調査
2) オオムラサキ及び希少種の食樹・食草の分布調査



オオムラサキ



ウラキンシジミ

➤ 春季・夏季・秋季の3回の調査で5科37種のチョウの確認ができた

生物多様性保全事業

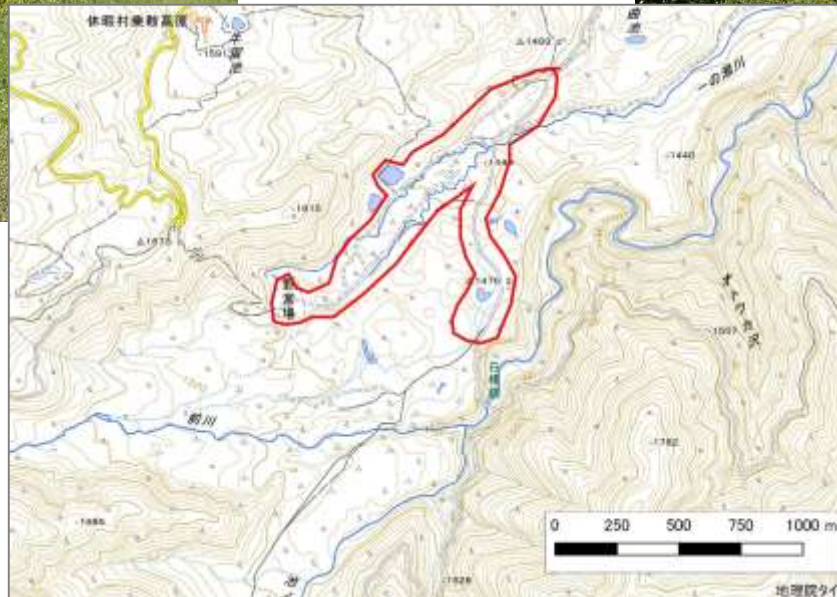
生物多様性モニタリング調査

○乗鞍一の瀬園地植物相モニタリング調査

- ・実施年度 令和元年度
- ・実施内容 植物相調査



一の瀬園地



一の瀬園地（園路）

➤ 春季・夏季・秋季の3回の調査で75科320種の生育を確認できた

生物多様性保全事業

市民生きもの調査

市民からの報告によって、市内の生きもののおおまかな分布状況を把握して保全のための基礎情報とするとともに、市民の生物多様性に対する意識の高揚をねらいとして平成27年度から実施

○市民生きもの調査の実施結果

年度	対象種	報告人数 (団体)	報告数	1人(団体) あたりの 報告数	実施期間	集計した 種類数
H27	カエル	46	290	6.30	H27.6.1～9.30 (122日間)	カエル8種
H28	ホタル	45	216	4.80	H28.6.1～8.31 (92日間)	ホタル3種
H29	セミ	33	195	5.91	H29.6.1～9.30 (122日間)	セミ10種
H30	ツバメ	42	186	4.43	H30.4.1～8.31 (153日間)	ツバメ2種
R 1	トンボ	67	199	2.97	R元.6.3～9.30 (120日間)	トンボ6種
R 2	カエル	136	266	1.96	R 2.6.1～9.30 (122日間)	カエル12種

生物多様性保全事業

市民生きもの調査

○市民カエル調査（令和2年度実施）

市民カエル調査結果

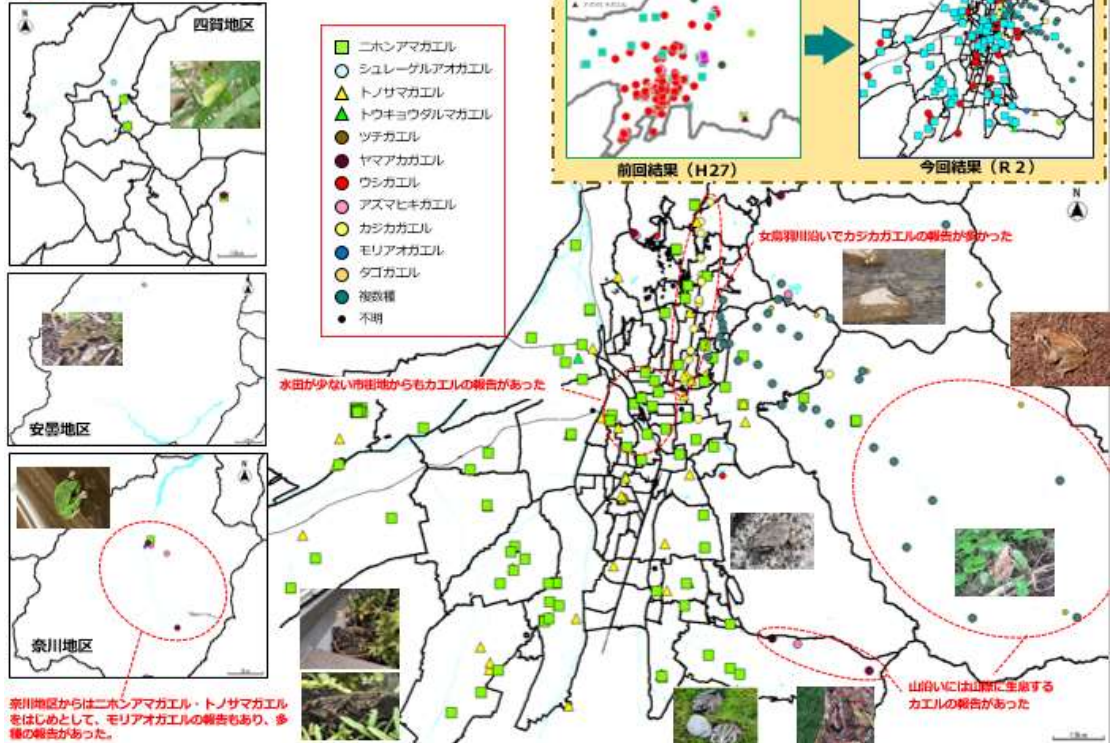
- 調査期間 令和2年6月1日（月）から9月30日（水）まで
- 報告件数 ・・・ 266件 報告者数 ・・・ 136人・団体

ニホンアマガエル	シュレーゲルアオガエル	モリアオガエル
		
110件（H27:42件） 水田、庭 など	2件（H27:2件） 山際の水田 など	1件（H27:0件）
カジカガエル	トノサマガエル	トウキョウダルマガエル
		
18件（H27:3件） 女鳥羽川 など	55件（H27:231件） 水田、庭、用水路など	12件（H27:3件） 水田など
ツチガエル	ヤマアカガエル	アズマヒキガエル
		
5件（H27:3件） 池、山際の川 など	6件（H27:3件） 林、山際の水田 など	7件（H27:2件） 山、林 など
ウシガエル2件（H27:4件）、タゴガエル6件（H27:0件）、複数種34件（うちナガレタゴガエル2件）、不明8件		

※トノサマガエルとトウキョウダルマガエルは交雑種も存在し、外見からの見分けは困難ですが、報告いただいた種名を基にカウントしました。
 ※表中の複数種は、同一人から同一地点において複数種の報告がありましたが一併として整理しました。
 ※複数種には、ニホンアマガエル・シュレーゲルアオガエル・トノサマガエル・トウキョウダルマガエル・ツチガエル・ヤマアカガエル・タゴガエル・ナガレタゴガエル・アズマヒキガエルが含まれます。



市内カエルマップ



● 調査結果

- ・長野県版レッドリスト（2015）で「情報不足（DD）※」であるナガレタゴガエルの報告がありました。
- ・女鳥羽川を中心にカジカガエルの報告が多くありました。
- ・水田の近くにおいてニホンアマガエル、トノサマガエルの報告が多くなりましたが、市街地周辺からの報告もありました。
- ・「カエルへの愛着」や「カエルと自然環境の関わり」といった感想がありました。



生物多様性

たくさんの トンボを みつけたよ

市民トンボ調査

調査期間：令和元年6月3日（月）～9月30日（月）
報告者数：67人（団体）
報告件数：199件

オニヤンマ	キンヤンマ	ハグロトンボ	アオハダトンボ	シオカラトンボ	アカトンボ類	その他
26件	5件	20件	15件	34件	66件	33件

主催：松本市 協力：報告いただいた市民の皆さん

お問い合わせ
松本市役所 環境部 環境保全課環境保全係（東庁舎4階）
〒390-8620 松本市丸の内3-7 ☎34-3267
e-mail : kankyo-k@city.matsumoto.lg.jp

生物多様性エコスクール

市内在住の小中学生とその保護者を対象とし、自然とふれあいながら生物多様性について学び、生物多様性の保全に対する関心を高めてもらうことを目的に学習会を実施



エコスクールで使用するスライドの一部

- エコスクールでは可能な限り事務局から生物多様性についての説明を実施
- 「生物多様性とは？」 「生物多様性のめぐみ」 「生物多様性の損失」 等を説明

生物多様性エコスクール

○H29からR元までの実施の様子



女鳥羽川植物観察会



女鳥羽川ホタル観察会



ゴマシジミ観察会



川の生きもの観察会



上高地自然観察会



トンボ観察会

生物多様性保全事業

啓発事業

市民生きもの調査結果や生物多様性モニタリング調査結果等についてパネル展等により市民等への周知を図った。

○生物多様性企画展（生物多様性の本箱展） 場所：中央図書館

平成29年から毎年実施（今年度4回目）
第4回：令和2年5月19日から6月7日



啓発事業

○生物多様性パネル展



期間 平成30年11月1日から19日
場所 市役所渡り廊下



期間 平成31年2月18日から3月3日
場所 イオンモール松本（風庭2階）



期間 平成31年4月2日から4月12日
場所 (株)八十二銀行松本営業部（1階ウィンドーギャラリー）



期間 令和2年2月21日から3月4日
場所 山と自然博物館 2階ホール